

令和4年度 自己評価

1. 園の教育目標

せんだん苑南こども園

事業の目的

就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に基づいて、心身ともに健やかに育成されるよう乳幼児期の教育・保育を行うほか、満3歳児以上の子どもに対し幼保連携型認定こども園教育・保育要領に掲げる目標が達成されるよう、教育を行うことを目的とします。

教育・保育方針

教育・保育を保護者の協力のもとに行う。また、常に子どもの最善の利益を願うために保護者から意見要望があれば真摯に傾聴し、不明な点があれば平易に説明し、より良い教育・保育の為に努力研鑽することを基本とする。1.子どもが安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、子ども自らが主体的に生き、多様な関係性の中で自己を表現できること。2.遊びを通しての指導を中心としてねらいが総合的に達成されるようにする。3.豊かな人間性を持ち、優しさと他者に対する寛容さをもった子どもを育成する。

保育理念(事業運営方針)

せんだん苑南こども園は「幼保連携型認定こども園の学級編成、職員、設備および運営に関する基準」に基づき就学前の子どもの教育・保育にあたっては児童の人権や主体性を尊重し、児童の幸福のために保護者や地域社会と力を合わせ、児童の福祉を積極的に増進し、併せて地域社会における家庭支援を行う。また、職員は児童に対して豊かな愛情を持って接し、児童の殊遇の向上のための知識の習得と技術の向上に努める。さらに社会性と良識に磨きをかけ相互に啓発するものである。

2. 本年度の目標・計画

- ・子ども一人ひとりに寄り添った保育教育の推進
- ・自然に親しみ五感や体幹を育てる
- ・あそびに主体的にとりくみ、関わりの中で協調性や協働性を育くむ
- ・保育教育の質の向上を図る
- ・家庭の子育てをサポートできる関係づくり

3. 評価項目の達成及び取組状況

主な評価項目	取組状況
教育及び保育 ・全体的な計画等	・新年度職員会議にて、全職員に理念をはじめ方針、全体的な計画などを配布し、読み合わせや意見交換をした上で周知を図る。 ・コロナ感染予防に取り組みながら、子どもを主体的に考え、また自主性が育つ活動を計画する。

<p>・教育及び保育の内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で自然環境を積極的に取り入れた保育を推進する。職員間で情報交換をし、あそびの共有ができるようにした。 ・園内研修として互いの保育を見学し、一人ひとりの成長に寄り添った関わりや保護者支援を重点的に学ぶ。
<p>主な評価項目</p>	<p>取 組 状 況</p>
<p>・教育・保育の記録等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスで年間カリキュラム・月週案を作成 ・個別記録を基に、年度末に全園児の指導要録を作成して引継ぎ資料にしている ・乳児・支援児については個別の指導計画を作成し日々の記録をとっている
<p>幼小中連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・綾部小学校と子どもの育ちと学びをつなぐアプローチカリキュラムをたて年間の連携計画を立てる。(別紙参照)今年度もコロナにより、中止になった交流もあり、思うようには行かなかった。小学校教諭とは来園してもらい、園児の見学と引き継ぎ等連絡を取り合った。
<p>特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者と全職員が、該当児の発達の変化や、具体的な支援の方法など細やかに情報共有し、安定した関わりができるよう職員会議やミーティングで機会を設けた。 ・必要に応じて保護者との面談を行い、保護者の気持ちに寄り添いながら、クラスまたは園の中で無理なく楽しく過ごせる手だてを探っていった。 ・外部の関係機関と連携をとったり、面談したりしながら、該当児にとって必要な支援や育ちの援助について情報共有した。
<p>虐待防止等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要とされる家庭には、行政関連機関等と連携し対応している。
<p>健康・衛生管理 事故防止・安全対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルを整備し安全管理を実施している。 ・毎月避難訓練を実施し、園児や職員それぞれに必要な安全や対策の意識を高めていっている。 ・園庭や遊戯室、遊具などの安全点検を毎月職員が行っている。不具合があった場合には対策を考えている。
<p>地域との連携 ・子育て支援 ・地域との関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月園庭開放をするよう計画したがコロナ感染予防のため今年度は活動を中止した。 ・コロナ感染予防の観点から地域や地域の高齢者施設の皆さんとの交流も中止。
<p>主な評価項目</p>	<p>取 組 状 況</p>

食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> •新型コロナウイルス感染予防において黙食に努め、密を避ける意味で3歳以上は衝立で仕切りをしたのは有効であった。 •園庭で栽培した野菜で簡単なクッキングをしたり、由良川キャンパスのご協力により芋ほりに出掛け、給食で味わったりして楽しんだ。 •献立には旬の食材を取り入れ季節を五感で味わえるようにしている。 •年度末にかけて感染症の拡大も落ち着きを見せ始めたため、少しずつではあるが以前のような食育体験ができた。
-------	---

4.園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> •職員同士、園全体や学年単位での話し合いをこまめに行い、子どもの主体性を育てるための活動について、学年別だけでなく段階ごとに成長を追っていける計画をたて実行に移せた。振り返りや反省は来年度の課題とする。 •感染症の影響で今まで通りにならないことが増えたが、職員がその都度考え工夫し、今できる精一杯のあそびや活動を考えて、思った以上に楽しく過ごすことができ、むしろ新鮮でもあり「当たり前」に感謝ができる期間だった。感染症の位置づけが変化し戻っていく中、来年度は出来る事を増やしていきたい。 •日々の感染予防対策も各職員の負担となる中丁寧になした。感染症による自宅待機クラスが出てしまったが、それ以上に大きく広がらなかったのは、その努力の結果だと思われる。
--

5.今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> •振り返りシート記入により自己評価を定着しようとする。PDCAサイクルにのっとり日々の保育教育の振り返りを更に定着させ、養護に基づいた子どもとの丁寧な関わりや、子どもの成長に寄り添った指導計画が立案できるように、更なる園内研修を行い個別に自己研鑽が取り組めるようにする。
保育教諭の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> •スキルアップ研修、園内研修を通して、集団でまた個々の子どもの成長や発達を見極め、その時に必要な支援や環境作りの学びを深めていく。 •職員がもつ得意分野やスキルを活用し、お互いを得意分野でフォローし合ってより良い組織をつくっていく。 •職員のそれぞれのスキルに合わせた(外部・園内)研修を選択あるいは企画し、全職員がスキルアップできるようにする。また向上にむけたフォローをしていく。リモート研修が増えたため、家庭事情等により普段研修に出掛けにくい職員も受講できる機会が増えた。来年度はリモートと集合研修を上手く取り入れながら更なる専門性を身につける機会をつくる。